

第12回例会報告

— 講演 —

日本でいちばん大切にしたい会社

シリーズ累計50万部突破のベストセラーで「泣けるビジネス書」としても有名な『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者である法政大学大学院教授 坂本光司氏にお話をいただきました。

講演内容

企業経営とは「5人に対する使命と責任を果たす活動」である……これは6,500以上の会社を研究してきた上で私が達した結論です。「使命と責任」とは「永遠の幸せを実現する、追究するための活動」を意味します。

「企業経営」のこれまでの定義といえば、「業績やシェアを高める」「ライバル企業を打ち負かす活動」などと教わりましたし、そのように書かれている本も未だ多いと思います。しかし、幸せという観点から企業経営を捉え直すべきです。

さて、ここでの「5人」とは、誰を指すのでしょうか。1番目に「社員とその家族」、2番目に「社外社員とその家族」、3番目に「顧客」、4番目に「地域住民」、5番目に「株主・関係者」です。「株主・関係者」に対しての「使命と責任」は、言うまでもなく、安定した業績を上げる、赤字を出さないということです。

4番目の「地域住民」とは、弱き人々、困っている人々、苦しんでいる人々です。企業はそういった方々に役立つサービスをしていくべきだと考えます。

「顧客」は3番目ですが、これまでの経営学なら1番に位置付けられていました。企業は顧客の幸せのためなら手段を選ばないという考え方ですが、これは間違っています。

2番目の「社外社員」は、下請け・協力・ベンダー企業を指します。彼らがいなければ仕事は成立しないにも関わらず、彼らのほとんどが原材料、コスト扱いられていることは大きな問題です。今日の大手企業は、不況になると決まって罪のない下請け企業に無理なコストダウンを要求しています。そうなれば下請け企業は、得意先への依存度を下げるしかなく、幸せな関係性は失われます。今の日本をおかしくしている大きな要因のひとつだと

思います。

さて、1番目に上げた「社員とその家族」は、企業にとって最も大事な存在で、彼らの幸せのために組織が存在するといっても過言ではありません。しかし、現実はそのことが忘れ去られているようです。

今、不況に陥っている企業の最大の問題は、「社員とその家族」のモチベーションが下がり、能力ある人間が離職している、あるいは能力を発揮できていないところに起因すると思います。

過去一度も不況になったことがない会社を調べていくと、彼らの経営学に共通しているのは、「社員第一主義経営」を貫いている点です。社員の幸せを軸に意思決定をし、社員に危害や迷惑がかかるようなことをしないと決めているので、社員満足度が高いのです。

そもそも、自分が所属する組織に満足していない社員が、どうして顧客に笑顔でサービス提供したり、感動するような新商品を作ったり、業績を高める努力をできるのでしょうか。逆に、「自分とその家族の幸せまで考えてくれる企業」と社員が感じれば、おそらくどんな人間でも感動し、いい仕事をすると思います。

経営とは、喜びも悲しみも苦しみもともに分かち合い、強者も弱者も望んだ社会を築く活動ではないでしょうか。儲けではなく、社員とその家族にとっての幸せをまず優先する、そんな正しい会社経営が必要なのです。



坂本 光司 氏 [法政大学大学院政策創造研究科 教授]

浜松大学教授・静岡文化芸術大学教授等を経て、2008年4月より法政大学大学院政策創造研究科(地域づくり大学院)教授及び法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科(MBA)兼任教授。法政大学大学院静岡サテライトキャンパス長。

講師
プロフィール
Lecturer Profile